



2025年4月11日

各位

会社名 テクミラホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 池田昌史
(コード番号: 3627 東証スタンダード)
問合せ先 経営管理本部長 藤代 哲
(TEL. 03-6838-8800)

通期連結業績予想と実績値の差異、並びに 連結および個別業績実績値と前期実績値との差異に関するお知らせ

2025年1月14日に公表しました2025年2月期(2024年3月1日~2025年2月28日)の通期連結業績予想と本日公表の実績値に下記のとおり差異が発生いたしましたので、お知らせいたします。

また、連結および個別業績における本日公表の実績値と前期実績値との間の差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想と実績値の差異について

① 2025年2月期(2024年3月1日~2025年2月28日)の通期連結業績予想と実績値との差異

	連結売上高	連結経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 11,000	百万円 200	百万円 △70	円 銭 △5.91
実績値(B)	11,165	102	△140	△11.85
増減額(B-A)	165	△98	△70	
増減率(%)	1.5%	△49.0%	—	
(参考)前期連結実績 (2024年2月期)	8,736	132	73	6.28

② 通期業績予想との差異の理由

連結売上高については、各セグメントとも計画通りに推移し、ほぼ前回予想通りとなりました。連結経常利益については、ライフデザイン事業のDX系サービスにおける原価増や、AI分野での研究開発支出の発生等によるセグメント利益の悪化、子会社の外部借入による金利計上額の増加等により、前回予想比で98百万円減少しました。親会社株主に帰属する当期純利益については、経常利益の減少に加えて、第4四半期においてライフデザイン事業における不採算事業の見直しに伴う減損損失の計上等をしたことにより、前回予想比で70百万円減少しました。

2. 2025年2月期業績実績値と前期実績値の差異について

① 連結業績の実績値について

ア) 前期実績値との差異

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前期実績値 (A)	百万円 8,736	百万円 △122	百万円 132	百万円 73	円 銭 6.28
当期実績値 (B)	11,165	91	102	△140	△11.85
増減額 (B-A)	2,428	214	△ 30	△213	
増減率 (%)	27.8%	—	△22.7%	—	

イ) 差異の理由

全セグメントが増収となったことにより、連結売上高については前期比27.8%の大幅増加となりました。また、連結営業利益については、増収効果により全セグメントが増益となったことに加え、IoT&デバイス事業において為替予約に伴う営業外の為替差益が縮小する代わりに、営業利益段階で計上する利益額が前期に比べ相対的に増えたことも影響し、前期比で214百万円増の黒字となりました。連結経常利益については、前期に発生した有価証券売却益が当期は無かったこと、当期よりM&Aによるのれん償却が加わったこと等の要因により前期比で減少しました。親会社株主に帰属する当期純利益については、当期第3四半期累計期間までに特別損失として計上した有価証券評価損に加え、連結業績予想と実績値との差異にて記載の通り、第4四半期において新たに特別損失を計上したことにより、前期比で減少いたしました。

② 個別業績の実績値について

ア) 前期実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前期実績値 (A)	百万円 580	百万円 132	百万円 271	百万円 231	円 銭 19.67
当期実績値 (B)	363	△ 50	△ 55	△ 63	△5.35
増減額 (B-A)	△ 217	△ 183	△ 326	△ 294	
増減率 (%)	△ 37.5%	—	—	—	

イ) 差異の理由

売上高については、子会社からの2024年2月期業績に基づく受取配当金が同期の事業会社の利益減少により前年より減少した結果、前期比37.5%の大幅な減収となりました。これに伴い、営業利益は前期を大きく下回る結果となりました。経常利益および当期純利益については、前期に発生した有価証券売却益が当期は無かったこと等により、前期比で大きく減少いたしました。

3. 2025年2月期の配当予想について

当社では、企業体質の強化と新たな事業展開に備えるために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を実施していくことを基本方針としており、株主に対して効果的に経済的価値を還元すること、その経済的価値を生み出す源泉となる企業の競争力を備えることが経営における重要事項と認識しています。

当期においては、中期的な当社グループの収益性向上を目指すための戦略そのものは進捗していること、親会社株主に帰属する当期純利益が赤字となる主因は評価損であり、この要因を除いた当期純利益は黒字であることと、本業の収益力を示す指標である償却前利益（調整後 EBITDA）は前期比約 3.3 倍と大きく拡大したこと、等から 2025 年 2 月期の期末 1 株当たり配当予想については引き続き 5 円とし、前回予想からの変更はありません。

なお、詳細につきましては、本日公表の「2025 年 2 月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」をご覧ください。

以 上